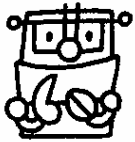


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

ちそう 地層は、なぜしまもようになっているの



地層は、水が運んだどろや、火山などでふき出したものが、
少しずつ積み重なってできるため、しまもようになるのさ。

重さや色、成分がちがうものが、少しずつ積み重なると、しまもようができる

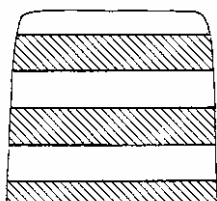
火山が多い日本では、火山のふん火のたびに、大量の火山灰^{かざんばい}や、よう岩などが飛び散り、地面に積もっていきます。これらの成分や色がちがうものが、長い間に、少しずつ積み重なると、しまもようの地層ができます。山をくずしたがけや、海岸の岩べきなどで、このしまもようの地層を見かけることがあります。

また、雨水などが火山灰やどろ、砂^{すな}、小石などをおし流し、これらの中で重いものが早く下にたまり、軽いものがその上に積み重なって層ができていきます。コップに土と水を入れてかき混ぜ、ひとばんおくと、土中の重いものから順に水底にしずんで、しまもようができるのと同じです。川が運んだどろなどが海底にたまってできた地層には、貝などの化石がふくまれていることが多いものです。

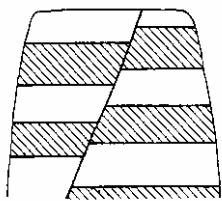
しまもようが、ゆがんだり、ななめになった地層もある

地下の深いところにあるマグマの動きや、地球の内部の強い力、地しんなどで、大地は、長い間に、引っぱられたり、おされたり、おし上げられたりして変化しています。そのため、場所によっては、地層がななめになっていたり、とちゅうから層が切れてずれていたり、地層が曲線のようにゆがんでいることもあります。

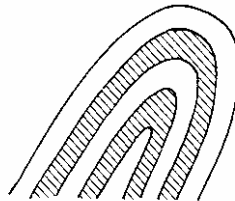
地層のいろいろ



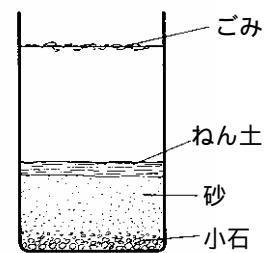
水平



ずれた層



曲がった層



ひとばん置いたどろ水